



秋から冬にかけての対策で

イネ縞葉枯病の発生拡大を防ごう！

ポイント ヒメトビウンカの「冬場のエサとすみか」をなくす

- ① 再生稲（ひこばえ）は、すみやかにかつ丁寧に耕起しましょう。
- ② 稲刈り後、畦畔や土手など周辺のイネ科雑草は除草しましょう。

★ イネ縞葉枯病とは ★

- ・イネ縞葉枯病は、ウイルスを持ったヒメトビウンカにより広がります。
- ・ウイルス病なので治す薬剤はなく、水稻は生育が妨げられ、減収します。
- ・ヒメトビウンカは、再生稲やイネ科雑草で越冬します。

こんな症状、ありませんか？

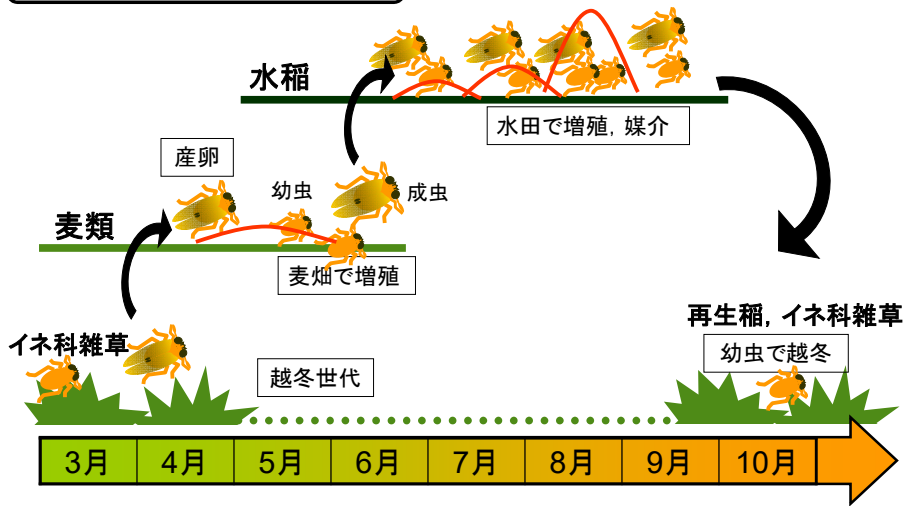
穂の不稔

葉の黄化

再生稲



媒介虫ヒメトビウンカの生態



イネ縞葉枯病防除マニュアル(茨城県版)もご確認ください！

(茨城県農業総合センター農業研究所 平成30年3月作成)

https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/documents/r3_shimahagare_manual.pdf



【発行】 県南地域イネ縞葉枯病対策連絡協議会

事務局：茨城県県南農林事務所 農業振興課（土浦市真鍋5丁目17番26号）

※ 技術の詳細は、最寄りの農業改良普及センターにご相談ください。



(令和3年10月作成)